

THE 2 KOBECO

FEBRUARY 1976 NO. 178

神戸っ子

特集/酒

神戸っ子昭和40年2月20日第三種郵便物認可
昭和51年2月1日印刷 通巻178号
昭和51年2月1日発行 毎月1日発行



■
'76 あなたとペニヤを結ぶ
ファッショントリニティー



LADIES SHOP
the ladies fashion of the four season creative beniya

神戸

三宮センター街 332-2135

ベニヤエルベ 332-2829

さんちかレディースタウン 321-2678

大阪

梅田阪急三番街 372-8093

上本町近鉄百貨店2F 779-1231

ミナミ地下センター 213-6128

東京

日本橋東急百貨店1F 211-0511

渋谷別館パルコ3F 476-2348

PHOTO/藤原保之
モデル/林あや子

A black and white photograph of a traditional Japanese kimono. The kimono has elaborate embroidery on the fabric, including floral and geometric patterns. A wide belt is tied around the waist, featuring a decorative metal clasp with three pearls. The kimono is shown from the side, with the patterned fabric visible along the edge.

世界の宝石店
MIKIMOTO

神戸店=三ノ宮-神戸国際会館TEL.221-0062

大阪支店=堂島-新大ビル TEL.341-0247

京都支店=河原町蛸薬師BAL TEL.241-2970

大阪=阪急・阪神・高島屋・丸・近鉄上本

町店・松坂屋

本店=東京-銀座4丁目 TEL.535-4611

©株式会社ミキモト 1976-2

春の装いにミキモトの帯留。

花

シリーズ②



MASARU NAKANISHI

中西 勝 (二紀会)

■本社／神戸市兵庫区旗塚通6-3-10 Tel.231-3321 ■神戸外商部／神戸市兵庫区旗塚通7-1-7旗塚ビル Tel.231-3321 ■パールファーム神戸／神戸市灘区鶴甲3-12-41 Tel.882-0107 ■さんプラザ店／神戸さんプラザビル3F Tel.391-4085 ■大阪支店／大阪市南区安堂寺橋通3-38-2 南大和ビル Tel.253-0165 ■大阪プラザ店／大阪ホテルプラザ内 Tel.458-2449 ■福岡支店／福岡市中央区赤坂1-11-13大福ビル Tel.781-5161 カタログご希望の方は、〒107 東京都港区赤坂1-3-5田崎真珠販売促進部までご請求下さい。



あなたの真珠はパールマークのお店で

真珠の天蓋、わが愛を封じ込めよ。

マベの半円は巨きく、個性的で、独自の世界を潜めているようにみえる。

その様々に輝く微妙な色合を引き立たせるのは、怜俐な黒と白。

首を廻る金の輪は、

寄せる波のようにすばまり、ペンダントの形を強調し、頸をほそりともみせる。

TASAKI PEARLS

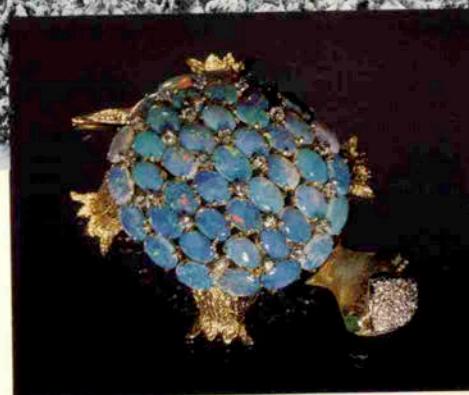
田崎 真珠



ペンダント ¥600,000 マベ真珠、ダイヤモンド、アコヤ、オニックス、K14、WG

FANTASY KOBE <2月>

想い出は しろいいろ。雪どけの頃に 輝ってくる



14K オパールエメラルドダイヤ入 ブローチ

宝飾店
Tajima
タジマ

元町 2 丁目 TEL 331-5761 代表

タジマでは宝石の鑑定を無料でご相談に応じておりますのでお気軽にご利用下さい。
定休日は水曜日です。

神戸 つ子'76

ニットの可能性を追つて――

市野木江充子

(ニットデザイナー) カメラ・米田定藏

市野木さんがニットデザイナーとしてすすむ直接のきっかけとなつたのは、昭和33年に秦万起子さんのコレクション目にし、そのデザインと色彩の、技術を超えたレベルの高さに驚いてからだ。爾来、秦門下に入り、現在は秦砂丘子さんに師事している。元来、編み物が好きで、小学校高学年のときは自分のセーターも編んだ。我流から始め、やがて、編物学校に通い、秦コレクションに啓発され今日に到つている。この三月、「体語」と名うつて芦屋ルナホールでショーをする。たとえば、洋服の襟とかダーツとかという明確な形のあるものではなく、形のないもの、一枚の布片を身にまとつことによって自分を表現する新しい試みである。理屈とか情念とかを一切否定したファッショニ。身体そのもので表現する――。現在、メーカーの依頼で宣伝用の作品をつくつたり、新作発表のショーのプロデュースなどをやっているが、自分の好きなことしかやらないという職人気質もある。「セーターこそおしゃれのパロメーター。その点、神戸は普段着がすごくおしゃれですね」KFS第一期生でもある。

(市野木ニッティングスタディオにて)





製造・販売 サントリー株式会社

思いたったら デリカ・タイム

お求めやすい価格で6種類

●価格は手軽 ●サイズは気軽 ●500ml 200ml 各赤・白・ロゼの合計6タイプと種類は豊富 ●栓はコルクスクリューのいらないイージーオープンキャップ ●しゃれたデキャンタータイプ ●中味は人気のベストセラーワイン《デリカ》…と、いいことづくめ。

なんと / 500ml 赤・白・ロゼ 450円。
標準的な小売価格

あらっ / 200ml 赤・白・ロゼ 200円。
標準的な小売価格

■ サントリーワイン
デリカ・タイム

よき消費者を育てる経営を――

河野忠博

(河野護謨工業社長) カメラ・藤原保之

山陽電鉄西代駅の近くに河野護謨工業の本社・工場がある。大正10年創立で、河野忠博さんは二代目社長。河野護謨がフランスのメーカーと技術提携をして「キッカーズ」ブランドで紐つき子供靴を売り出したのは三年前。紐つき子供靴は売れないという業界の常識を破つて売れ、今や子供靴からブーツまで、「キッカーズ」は若者のアイドルとなつた。「子供のときに足にピッタリ合った靴をはかせることは非常に大切なことです。やつとここへ来て実を結んで来たようですね」という河野さんは、ファッション産業の一翼をも担つているが、「ファッションに名を借りた金もうけじやなく、本当にいいものをつくること――これは経営者の当然のモラルです。消費者も流行ばかり追うのじゃなく始末すべき点は始末すべき」と安易な消費者迎合と流行追随を批判する。「いいものをつくって、その良さを消費者に知つてもらうこと、何とかしてその良さを知つてもらおうとすることが大切なんです」これが変わらぬ信念だ。溪流釣りが好きで、時間があればよく行く。口マンがあるからだという。昭和八年生まれ。塩屋在住。

(河野護謨ショールームにて)



日本の心を伝える

伝統の味わいが
豊かに香る
サワノツル





ある集い☆マカンブッサール

「マガンブツサールで
体なにやネン!」
と舌をかみつつ、ケゲン
な顔をされる。その上、
アダルト美人のお姉さま
方（神戸のあちこちで活
躍するキャリア・レディ）
が12人もそろう会なのだ
から。

内容はいたつて簡明な
ものでマレー語で大食漢
の意味。つまりうまいも
んをたべる集い。神戸の
美味しいものをたべ、ゲ
ストに魅力的な男性一人
を招いて、おしゃべりし
ながら味わう。男性諸氏
も食べられるのではない
かと恐る恐るお出まし。

万博開催の頃は、パビ
リオン見学はそっちのけ
でひたすら各国のレスト
ランへ出かけ、京、城崎、
馬籠など各地へ味の旅。

最近は12月のクリスマ
スパーティが定例になつ
て、パーティ淑女達のフ
アショナブルな神戸らし
く人間同士の暖たかい交
流会を楽しみに待つ人々
も多い。相言葉は“デー
トリッピに続け！”

写真左より 高月昭子、今岡頌子、
藤本ハルミ、柳本薰、小泉美喜子、
中西美代子、岡田美代、寺井昭子、
市村礼子、上月倫子、花柳芳恵子、
中島嘉子、本文28頁参照

（生田神社会館にて）

中味が自然の味とコクの「本醸造」なら
容れものも画期的な四角い清酒。最後の
一滴まで、空氣にも、光にもふれない
蔵出しそのままのおいしさをお楽しみ
いただけます。



清酒
金露
金露酒造株式会社

人は心 酒は金露

四角い清酒

蔵出しの風味をおとどけする新容器！

本醸造
金露
パック

1.8ℓ 詰



シルクロード踏査隊に参加するメンバー

●コウベスナップ



夢とロマンの1万7千キロへ出発！



西川副社長（手前）から西川隊長へキーの引き渡し

神戸商科大学山岳部と同大学OBでつくっている「稜線山岳会」（網本義弘会長）の「シルクロード踏査隊」（隊長・西川仙之助大助教授）一行（18名）が2月15日トルコから出発するが、それに先立って昨年12月13日午後12時から国鉄三ノ宮駅前駐車場にて結団式が隊長以下14名の参加で行われた。開会の辞のあと、西川隊長が決意を、その後援の財団法人21世紀ひょうご創造協会の一ノ瀬周太郎専務理事が激励の言葉をのべた。そして、兵庫トヨタ自動車の瀧川博司副社長から同社創立30周年を記念して贈られた「シルクロード・レインボー・1976」の文字も鮮やかなクラウン二台のキーが隊長へ引き渡された。同踏査隊は5月29日までの予定で夢とロマンの9か国、1万7千キロを回るが、完走は山岳部員4名の予定。

神戸の中の情景

『2』

文・多田智満子
絵・石阪 春生

傾いた町

たとえば山手の丘に住む夫人が、テラスで紅いセーターを編んでいるとする。そこに子猫がきて毛糸の玉をころがす。玉はテラスからゆるやかに傾斜した芝生に落ちる。斜面を南へ南へ、紅い玉は長い長い毛糸の尾を曳きながら、小学校の校門の前を過ぎ、教会の埠にそつてころがりつづける。玉は最後にポトンと海におつこちるだろうか。それとも、それまでにすべての糸を繰り出し尽くして、自然消滅しているだろうか。いずれにしても夫人は平和な顔つきで、日当りのよい丘のテラスで、今もセーターを編みつづけている。

いは、長い間つながっていた犬が、やつと散歩に連れ出してもらつたとする。犬はたまりにたまつたオシツコを、片脚あげて電柱に思いきり浴びせはじめる。暖い液体は坂道を細い川のように流れてゆく。そして三分後、一キロも離れた坂下で、巡査が首をかしげるのである。水道管の破裂かしらん。それにしては色が黄色い……

ある

